

～すてきな人・モノ・アートの冊子～

ふじみ野

ART88

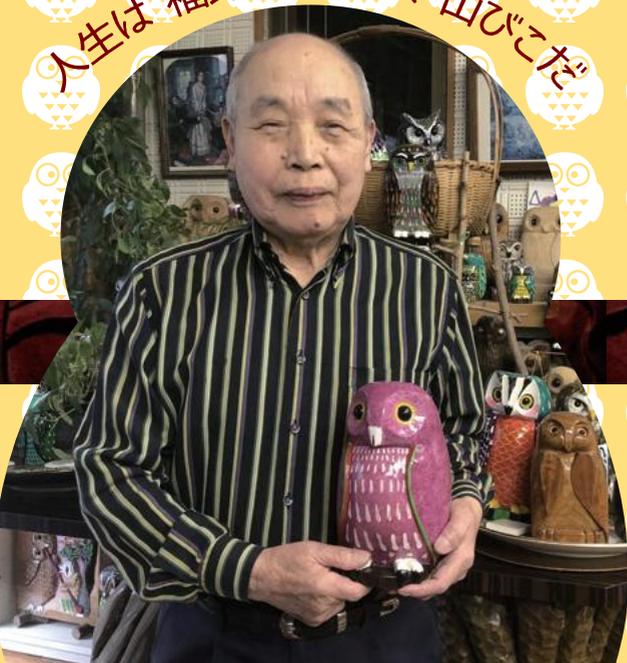
アート発見発信
プロジェクト



木彫刻家 / 溝口義種

Vol.7
2022.3.24

ふくろう
人生は 福郎じゃないよ 山びこだ



木彫刻家 溝口義種
みぞくち よしたね



ふじみ野市から3,000羽を超える「ふくろう」が、羽ばたいてきました。日本各地へ、世界各地へ。3,770羽制作(2021年8月現在、コロナ禍で疫病退散のために彫り始めたアマビエも含む)。

家具職人、内装施工会社の経営者を経て、彫刻を始めたのは70歳。87歳になった今も、日曜・祝日なしの朝9時から夕方5時まで毎日彫っています。2007年には、お孫さんの絵に感化されて彫刻した作品が国展で入選しました。彫刻を始めたころは大きな作品を彫っていたそうですが、縁起物のふくろうを彫ってみようと思立ち、作り始めたそうです。すると、息子さんが引



がんこん
眼魂(国展入選作品)

き継いだ会社に新しい仕事が舞い込んだり、ふくろうをほしいという人に譲ると手にした人に幸せが訪れたり。喜んでもらえることが嬉しくて、今も作り続けています。「こつこつやればできる」という言葉がとても力強く響きます。

溝口さんは、「大切なのは山びこ」とおっしゃいます。「ありがとう」と言ったら「ありがとう」と返ってくる。「やさしさ」は「やさしさ」で返ってくる。ふくろうはここにあるけれど、大事なのは山びこだと。溝口さんは、中越地震の被災地・新潟県の旧山古志村、東日本大震災の被災地・岩手県釜石市へも復興の願いを込めたふくろうを贈りました。

丸太から、どんなものが出来上がるか、彫ってみて分かる仕上がりを楽しみ。材料の木材が不足しているとき、出来上がっていた作品に色を塗ってみたら、ひとつ色を入れる度に作品が変わることが楽しい。今を楽しもうとする生き方も教えていただいた気がします。

溝口さんの情熱はいつまでもいつまでも続きます。

文 / 寺内みか



トイピアノが
“再生の光”を...

トイピアニスト
畑 奉枝
はた ともえ

畑奉枝さんが実家から遠い音楽大学を目指したのは家族から離れ、ピアノに没頭するためでした。3つ違いのお兄さんは大学進学後に統合失調症を発症。病は家族を破壊するほどで、過酷な状況下、音大受験の為必死に練習を重ねました。

掴み取った武蔵野音楽大学楽器学科ピアノ専攻合格。卒業後、音楽舞台制作の仕事を経て自ら事務所を設立。音楽で心が自由に旅して欲しいと“音旅舎”と命名。舞台制作のヒント探しに訪れた骨董市で偶然トイピアノと出会い、どこか懐かしい不思議な音色の虜に。しかし、演奏に取り入れるには葛藤があったとか。トイピアノに惹かれながらもピアノにこだわっている自身に気づき、ほんとうに表現したいことは何なのか自問自答。そうして削り出した舞台は反響を呼び、やがて避けてきた実家のある故郷愛媛での上演を決意。公演で帰省した際、実家に持ち込んだトイピアノを初めて見たお兄さんが、なんと突然心の赴くままに弾き始めた

のです。その瞬間、奉枝さんの目からはただただ涙が。さらに、お兄さんの口からは「ピアノは気が引けるがトイピアノなら演奏できる」。そして長年言えずにいた当時の気持ちが語られました。それは、トイピアノによってもたらされた“再生の光”だったのです。

トイピアノがきっかけで起こった自身の家族の変化を知ることで誰かの心が軽くなればと執筆。一方、本の発行は家族をさらなる偏見に晒すのではと迷いもあったとのこと。そんな畑さんの背中を押したのは、その家族でした。



2021年6月ふじみ野ステラ・イーストのホールで、本のタイトルでもある『いつかの涙を光にかえて』を上演。トイピアノとグランドピアノを巧みに操る素晴らしい演奏と迫力の朗読劇。終演後の拍手はなかなか鳴り止みませんでした。

人には触れられたくないことがある。畑さんの音楽活動は、そんな人の心に寄り添い続けて行く事です。次回の公演がほんとうに待ち遠しいです。



「いつかの涙を光にかえて」
～統合失調症の兄とトイピアノ～
文：畑奉枝 絵：半田正子
発売：ホシツムグ

sound office 音旅舎
TEL&FAX : 049-262-8156
メール : sound-office@ototabisha.com
HP : <http://www.ototabisha.com/>
YouTube : <https://www.youtube.com/channel/UCiitIQOQDXLkppdeOp1QEQA>



文 / 井上芳枝



墨と笑顔に包まれて



俳画
サークル

グルッペ墨

題字 / 千代田徳子



主宰の千代田さん

俳画サークル『グルッペ墨』は、現在30名在籍し、アトリエ兼ご自宅で月に2回活動をしています。生徒さんは全て女性。明るく、なごやかな雰囲気の中、作品づくりに励んでいます。

俳画とは、俳句と墨絵をミックスしたものです。四季の草花や風物等を題材にすることが多いですが、こちらのサークルでは童謡、手紙、詩、抒情詩などからも自由に題材として取り入れます。

主宰者であり講師の千代田徳子さんは、明るく丁寧な指導で生徒さんから慕われています。

作品評価の際は、まず良い点を褒めます。「この線は素晴らしいわね」「どんどん上達していますね」「こうしたらもっと良くなりますよ」と手早く的確に赤い筆で直します。指導中も皆さんの笑いが絶えません。長年通っている生徒さんとの掛け合いもお見事です。墨といっても、濃淡を使用すれば幅広い表現が可能になる事も新鮮な印象でした。

ちなみに、千代田さんの趣味は卓球、陶芸、登山など多岐に渡ります。また、オカリナ教室と歌声喫茶を主催したりと、多方面で活躍されています。

ある生徒さんの作品の中で、往年の名曲「若者たち」の歌詞が描かれていました。それを見た千代田さんが「みんなで歌いましょう!」と、自らオカリナを演奏。あっという間に歌声喫茶に早変わり!

自由で楽しい俳画サークルは、今日も墨と笑顔に包まれています。



掛け軸「絆」の表装は、前号Vol.6でご紹介した戸澤利雄さん作

主宰の千代田様が2022年2月にご逝去なさいました。謹んでご冥福をお祈りします。

文 / 染川広行



あきらめなかった努力の人
エッセイ漫画家 **松岡奈奈**
まつおか なな

エッセイ漫画家の松岡奈奈さんは中学生の頃、漫画家になると決めました。10代でデビューする人も珍しくない世界だそうです。あきらめずに挑戦を続けて30代で夢を実現。「私は天才ではなく普通の人」だと語り、淡々と努力し続ける姿がかっこいいです。

漫画家になるために高校・大学とも美術系の学校に通いました。卒業後は、働きながら、漫画コンクールへの応募や出版社への原稿持ち込みを続けました。しかし残念ながらよい評価を得られず、原稿を見せた相手に「この年齢でこの実力じゃデビューは無理」といわれるなど追い込まれていきました。

30代になったある日、夢をあきらめるつもりで夫に相談。ところが夫の返事は「あきらめることは簡単。続けることのほうが大変だから、趣味でも続けられればいい」というものでした。心がとても軽くなったそうです。すると、ついに花開くときがきます。

外国人を受け入れるホストファミリーをしていた松岡夫妻の元にイスラム教徒の女性が滞在。日本人とは異なる生活習慣に衝撃を受け、こぞとばかりに彼女についてエッセイ漫画を描いたところ、その作品が呼び水になったのです。まずは書籍企画の話が来て、さらには別の出版社から念願のプロデビューをしました。

現在は、ふじみ野市内でイラスト教室を開きつつ、育児とエッセイ漫画執筆に忙しい毎日をご過ごしています。今後も読者に受け入れられる漫画を描き続けたいそうです。世の流れに合わせながら自己実現するバランス感覚に触れて、家族や友人たちが松岡さんを応援する姿が目につかぶようでした。



「つたわる LOVEえいご」
主婦の友社 2015年
松岡奈奈(著)
Darren Greer (監修)
Tomoko Greer (監修)

「明日からできる速効マンガ 5年生の学級づくり」
日本標準
中村健一(著)
松岡奈奈(マンガ)

松岡さんが連載中の月刊漫画誌「本当にあった笑える話」ぶんか社



HP <http://matsuokanana.web.fc2.com>
Twitter <https://twitter.com/nanapinqueen>
FB <https://www.facebook.com/profile.php?id=10000564808948>



文 / 白村さおり

フルート職人・演奏者

古田土勝市

こたどかついち



ものづくりを楽しむという生き方

※フルートです

の曲を作曲しました。また、世界的フルート奏者であるジェームズゴールウェイ氏と一緒に、社内食堂で演奏した、フルートアンサンブルの響きに感動して「フルートの低音がしっかりすればアンサンブルはもっとよくなる」と気付き、奏者の技量ではなく楽器に対する課題を感じ取っていたそうです。古田土さんは、持ち前の行動力と、この出来事をきっかけにバスフルートの製作を決意し独立しました。

職人としてフルートを作り続けてきた古田土さん、これまで難しいとされていた低音フルートの研究開発を半世紀にわたり進めてきました。ソプラノフルートから世界で最も低い音の出るダブルコントラバスフルートまで、全8種類のフルートを製作しています。

低音フルートのために開発した吹き口である「歌口」のデザインは、今や世界標準になっています。

「自分の作ったフルートで、さらに新たなことが試されていく事に喜びを感じる」と語る古田土さん。演奏者に期待しながら、フルート職人の育成を課題に奮闘中。次世代を見つめ人生を楽しむフルート職人の活躍から目が離せません。



「人生をどれだけ楽しむかだね」と満面の笑みで話すのは古田土勝市さん。

フルート奏者であり、古田土フルート工房のフルート職人です。

幼少期を茨城県常陸大宮市の大自然の中で過ごし、釣竿に弓矢、楽器に至るまで、ないものは自分で作るというアウトドアな少年だったそうです。中でもフルート作りの原点となったのは、竹で作った笛でした。高校のプラスチックバンド部でフルートと出会い、宇都宮短期大学の音楽科へ進学します。ある日、誤って壊してしまったフルートを自分で修理した古田土青年。「こんな仕事もあるのか」と気が付き、フルート製作所へ勤めることを決めました。

古田土さんは職場でのフルート製作の合間、手遊びでオリジナルのフルートを作っていました。そのフルートが作曲家の廣瀬量平氏の目に留まり、広瀬氏が古田土さんのフルートのため



HP

古田土フルート工房

三芳町北永井 664-12
TEL: 049-257-1728
メール: kotatofukushima@f.email.ne.jp
HP: <https://www.kotatoandfukushima.com/>



文 / 田嶋彩音



探究心から生まれる美



小塚工房 小塚桃恵

こづか ももえ

日本の伝統を継承しつつ、新たな可能性を生み出す小塚工房。截金師・小塚桃恵さんは前号 (ART88 Vol.6) に掲載した仏師・小塚友彦さんのパートナーです。桃恵さんは京都伝統工芸大学を卒業後、京仏師のもとへ彩色職人として弟子入り。その後独学で截金を習得されました。截金とは、金箔を数枚重ねて焼合わせ細く切ったものを、筆と布糊を使い貼りながら、文様を表現してゆく伝統技法です。古くは仏像などの装身具に、現在では工芸品などに用いられています。桃恵さんは截金の本や文献を参考に道具等も自作され、試行錯誤の末2018年に漆截金という新たな技法を確立させました。今は友彦さんと共に仏像修復の仕事や、伝統文様をモチーフにした作品やアクセサリーなどを創作しています。

修復のように過去から継承されるものを損ねないように整えることと、独自の感性で未来に向けて新しいものを生み出すこと。この二つは相反する作業ですが、桃恵さんはそのことを深く理解し繊細なバランス感覚で、双方を完遂されているように思えました。それは桃恵さんが作品のモチーフにする宇宙観を表した曼荼羅のよ

うに、まるで彼女自身が過去と未来を繋ぐプロセスの一部であり、美しい表現であるということを表しているようです。

桃恵さんの探究心の中にある、私たちがまだ見たことのない美しいもの、目には見えないけれど感じるものは、いつか生み出される日を待っているのでしょう。今後、銀箔に熱を加えて着色した色箔にも挑戦されるという桃恵さん。新しい宇宙が彼女の手でどのように彩られ展開してゆくのを楽しみます。



小塚工房

HP: <https://momoe-kozuka.shopinfo.jp/>
Instagram: <https://www.instagram.com/kirikane.art>
Facebook: <https://www.facebook.com/小塚工房-697658946940233/>

HP



文 / 尾澤景子

～ふじみ野ART88 (発見・発信) 私たちが目指すもの～

世の中の価値観が、日々目まぐるしく変わってゆくこの時代。世界規模で起こった未曾有の出来事は、私たちの日常生活の中の大切なことについて、深く考える機会を与えました。それは衣食住のことだけではなく、人と人との繋がり、そして心に安らぎや潤いを与える音楽や芸術の重要性です。様々なことが困難に思える状況下でも、意識のベクトルを変えて周りを見てみると、このふじみ野市でも多くの素晴らしいアーティスト達が活躍していることに気がつきます。その活動は、私たちから不安を取り除き、勇気や希望を届けてくれるものでした。

ひとりとして同じ人がいないこの世界、そこで各人が表現するものや出来事は、ひとつとして同じものはありません。そしてこの世界は、その唯

一無二である私たちが集まって出来ているものです。

私たちは、既成のアートという概念やジャンルにとらわれることなく、人の存在によって表現され繋がりを生み心を豊かにしていくものをアートと位置づけ、ふじみ野市内のアーティストを発見し、その情報を発信してゆきます。そして、皆さまが見つけたふじみ野市内のアートに関する情報を共有し、私たちと一緒に新しいものを作り出していきたいと思っています。

このアート88という冊子が架け橋となって新たなものや交流を生み、ふじみ野市全体が多様性に満ちた一つの美しいアートとして存在すること。そして、その豊かな色彩や響きが、世界中に広がってゆくことを私たちは願っています。

このプロジェクトは上記8名の公募スタッフにより企画・取材及び編集を行いました。

スタッフ / 有賀輝・井上芳枝・白村さおり・尾澤景子・篠島幹昌・染川広行・田崎彩音・寺内みか (50音順)



ART88のバックナンバーは右記QRコードリンク先よりご覧頂けます。



アートプロジェクト&アートフェスタ動画配信!

アートプロジェクトとして様々なジャンルのアーティストの動画をYouTubeで配信しています。また、今年度はオンラインで開催したアートフェスタの動画も視聴することができますので、是非ご覧ください。



発行 / ふじみ野市文化・スポーツ振興課
編集 / ART88 プロジェクトスタッフ
356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡1-1-1
TEL.049-262-8124
E-mail bunka@city.fujimino.saitama.jp

紙面デザイン / ライブプリント info@liveprint.jp